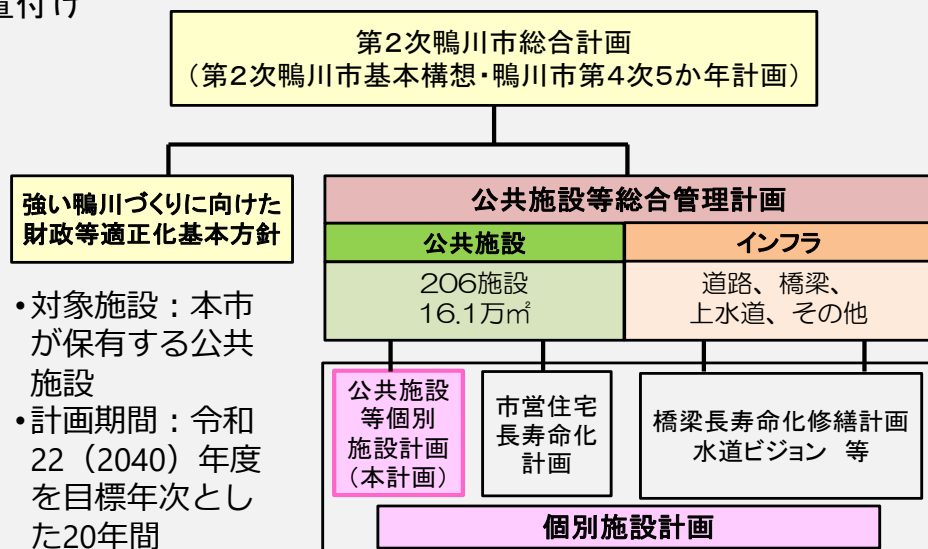


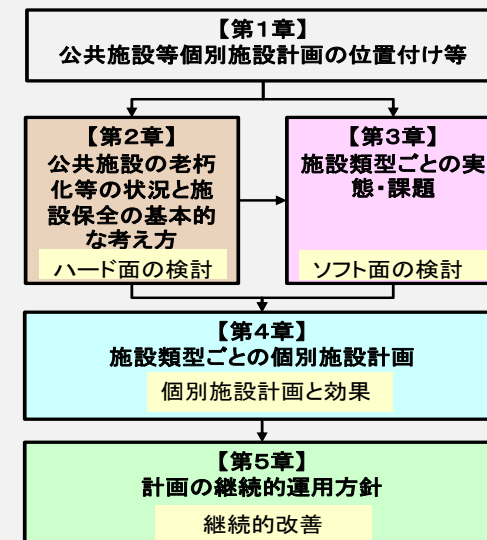
■ 計画の位置付け

- ・公共施設等総合管理計画に基づき、各施策の中の施設面の取組みに関して、具体的な行動計画として提示するものです。



■ 計画の構成

- ・施設の老朽化状況等ハード面の実態・課題（第2章）と各施設類型ごとの利用・運営・コスト等のソフト面の実態・課題（第3章）を明らかにしました。
- ・実態・課題に対して、改善につながる方針・再編案を策定（第4章）しました。
- ・更なる改善につなげるための継続的運用方針（第5章）を定めました。



第2章 公共施設の老朽化等の状況と施設保全の基本的な考え方

■ 老朽化等の状況

・老朽化等の実態・課題を(1)学校施設、(2)認定こども園施設、(3)一般公共施設の3類型で把握・整理しました。

（１）学校施設

[illegible]

- 学校の統廃合を進める中、改修等の整備を実施。
- 劣化状況に関しては良好ですが、トイレ改修やバリアフリー化は必要となっています。

統廃合時に整備

(2) 認定こども園

[illegible]

- ・幼稚園・保育園の再編を進める中、改修等の整備を実施。
- ・劣化状況は概ね良好ですが、一部老朽化が進んでいる施設や分離型の施設があります。

整備

(3) 一般公共施設

[illegible]

- ・ 躯体、劣化状況及びトイレ等整備水準に課題のある施設が多く見られ、早急な対応が必要です。

全体的に再編等は
進んでいない

耐震性に問題のある施設10棟

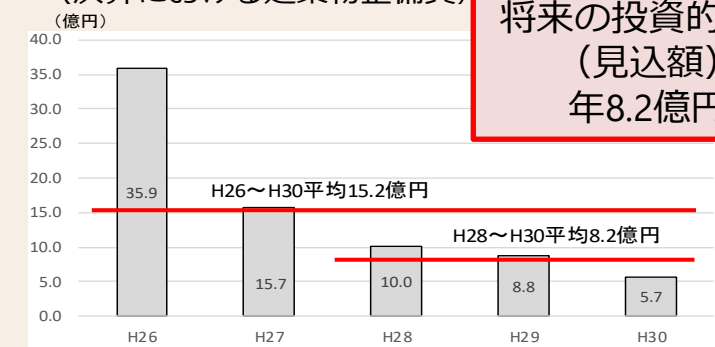
築30年以上の施設の殆ど
どの部位で劣化進行

築年の古い施設中心にトイレの洋式化ドライ化が未実施

■ 今後の投資的経費（見込額）

- 建築物整備にかけてきた経費は、財政状況が年々厳しさを増す中、平成28年度～平成30年度決算における3か年の平均額は年8.2億円となりました。
- 公共施設等総合管理計画（平成29年2月策定）における将来の投資的経費（見込額）は年11.4億円でしたが、本計画においては年8.2億円として検討しました。

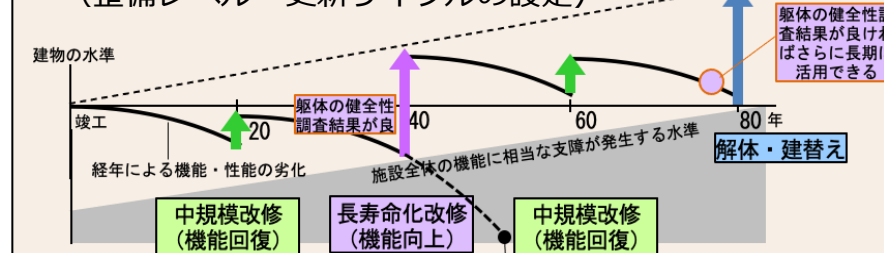
(決算における建築物整備費)



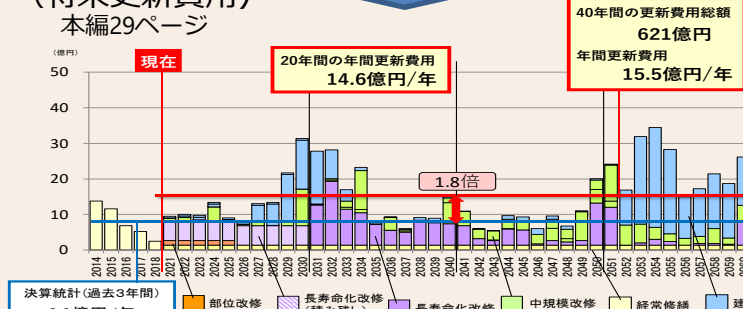
■ 将来更新費用の試算（80年長寿命化）

- 今後とも維持する施設については、機能回復、機能向上を計画的に実施しながら、80年の長寿命化を図ることとし、将来更新費用を試算しました。

(整備レベル・更新サイクルの設定)



(将来更新費用)



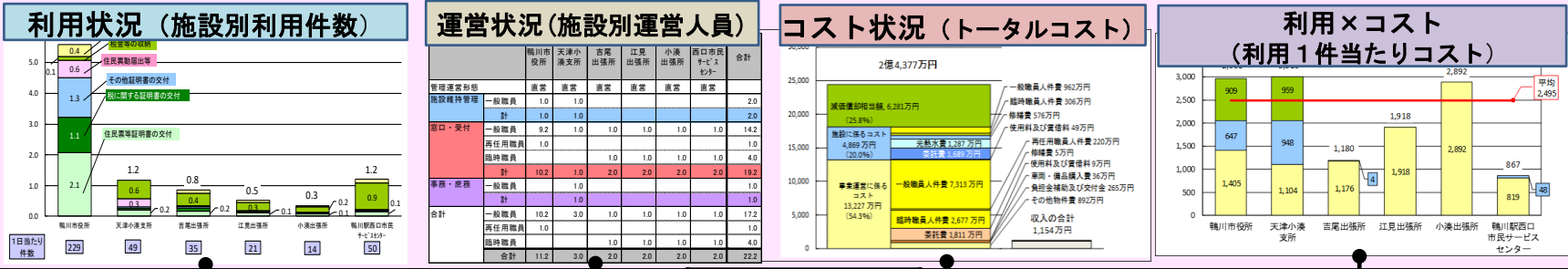
将来更新費用
年14.6億円
(今後20年間)

将来の投資的経費
(見込額)とのかい離
1.8倍

- ◆ 将来の投資的経費（見込額）とのかい離幅が1.8倍
- ◆ 長寿命化や整備の効率化・合理化だけでは、財政目標とのかい離幅の解消は難しい。
- ◆ 具体的な方針・再編策等を定めることが必要です。

第3章 施設類型ごとの実態・課題

- 利用状況、運営状況、コスト状況の詳細な把握を行い、ソフト面での実態・課題を明らかにするとともに、ハード面（施設面）の実態と合わせて、課題を整理しました。



第4章 施設類型ごとの個別施設計画

- 総合管理計画の基本方針及びハード面・ソフト面の実態・課題を踏まえ、個別施設計画の整備方針を定めました。

整備方針

- 計画的保全による施設の長寿命化を図るとともに、財政状況が一層厳しさを増すことを踏まえ、**更なる施設総量の削減や運営・管理の見直し等**を進める。
- 継続的な実態把握による、改善策の見直しを続けること**により、地域の将来変化に柔軟に対応する。

施設類型ごとの実態・課題のまとめと方針・再編案

● 主な施設の実態

保健・福祉施設

(施設面)

- 福祉センターは屋根・屋上を除いた各部位がC評価となっているが、その他の施設は比較的良好である。

(利用面)

- 天津小湊保健福祉センターの利用者数は年間6,800人で、福祉センターや江見老人憩の家と比較して少なく、1日当たりの利用者数は20人程度にとどまっている。

(コスト面)

- 1人当たりのコストは、減価償却費が高んでいる影響で、天津小湊保健福祉センター（1,845円/人）及び総合保健福祉社会館（1,814円/人）は、他の施設よりも高くなっている。

● 課題・方針

【課題・方針】

- 受益者負担の適正化を検討**する必要がある。
- 天津小湊保健福祉センターの在り方**を検討する必要がある。

基本方針・整備方針を踏まえ、施設類型ごとの実態・課題に対して、施設類型ごとの整備方針と個別施設の再編策を定めました。

● 再編案

公民館等

(施設面)

- 18施設のうち、4施設が、耐震改修が未実施。
- 青少年研修センターを除き、老朽化が進んでいる。
- 建物の健全性、劣化状況に問題がある。

(利用面)

- 年平均1日1件未満の利用にとどまっている施設が6施設ある。

(コスト面)

- 利用1件当たりのコストが1万円を超える施設が7施設ある

【課題・方針】

施設の現状と利用状況を踏まえ、運営方法の見直しや適正配置等を検討する必要がある。

学校

(施設面)

- 劣化状況は全般的に良好であるが、4校はC評価の多い棟を有している。
- トイレ改修やバリアフリー化が進んでいない。

(利用面)

- 小学校は、鴨川地域を除く3地域で1校に集約している。中学校は市全体で3校に集約している。
- 鴨川地域では、田原小学校が全校児童が100人を下回る状況が続くことが見込まれている。
- 長狭中学校、安房東中学校ともに全校生徒が100人を下回っている。

【課題・方針】

- 児童生徒の減少に対応**する必要がある。
- 老朽化及びトイレ改修等への対応**が必要である。

